

みんなで参加しよう！ せと市民総ぐるみ防災訓練

瀬戸市の総合防災訓練が「協働参加型」に

災害が起こったとき、最初に災害から身を守るのは自分自身であり、安全の確保には地域の協力が必要です。行政とうまく連携を取りながら被害を最小限に抑えるにはどうすればよいのでしょうか。今回の防災訓練は、今後30年以内に70～80%の確率で発生すると考えられている南海トラフ地震が起こった場合に、市内全域が災害に直面した状況を想定し、地域の皆さん自身が災害対応をする、という今までとは違った訓練となります。訓練で見えてくる課題を、来たる災害に備え活かしましょう。

日時 11月17日(日) 午前8時～

場所 自宅や市内の公立小中学校など(連区により日時や場所が異なる場合があります。各連区自治会などでご確認ください。)



訓練のカタチが 大きく変わります



サイレンの一齐吹鳴

訓練の一環として、11月17日(日)午前8時に消防署、消防分団詰所および消防車両によるサイレンの一齐吹鳴が市内の各地で行われます。

一齐吹鳴に合わせ、各家庭で地震を想定したシェイクアウト訓練を行いましょう。

その後、ガスの元栓を閉めて、ブレーカーを落とし、火災などの二次災害発生を防ぐための行動確認をしましょう。

※ブレーカーの戻し忘れにご注意ください。



サイレンの音が聞こえたら せとシェイクアウト訓練

しせいをひくく



あたまをまもり



じっとする



市ホームページ「防災総合情報」→

「令和元年度瀬戸市総合防災訓練」

をご覧ください、災害直後の行動をよく確認しておきましょう。

一人ひとりが

訓練に向けて 準備できること



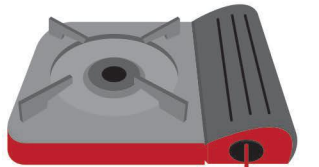
①非常持出袋の用意

避難時に必要な食料や着替えなどをまとめた非常持出袋を、玄関や寝室に置いておきましょう。訓練ではこれを持って避難します。



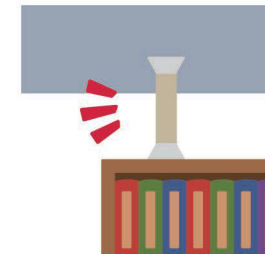
②家庭内備蓄の用意

南海トラフ地震に備え、各家庭で1週間分の食料を確保しておきましょう。カセットこんろや燃料も備えておくとよいでしょう。



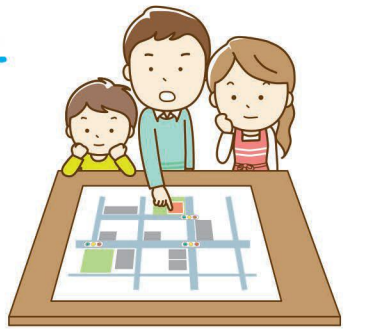
③自宅の耐震化や家具の固定

自分の命は自分で守り、「人に助けられる」のではなく「人を助ける」ことができるようになります。自宅の耐震化と家具の固定により、地震の揺れで怪我を負う可能性が大幅に下がります。



④家族で防災会議

自宅周辺の危険箇所を把握し、災害時の集会所を具体的に決めましょう。また、家庭内備蓄の保管場所を家族で共有しておきましょう。



総合防災訓練とは

市内の各地で行われる地域防災訓練と、同日に市役所で行われる災害対策本部運営訓練を合わせて瀬戸市総合防災訓練と呼びます。

.....主な訓練予定.....

地域防災訓練 市内各地

シェイクアウト訓練

自宅などで発災直後の命を守る行動を確認します。



安否確認訓練

その後、一時集会所(組集会所)に集まり近所の方の安否を確認します。

避難所開設・運営訓練

小中学校などへ避難する想定で、体育館などを使用した避難所の疑似体験します。



災害対策本部運営訓練 市役所

(市役所内に設置される瀬戸市災害対策本部)

図上訓練

南海トラフ地震で想定される被害や通報に対する情報整理を行います。



情報連携訓練

地域防災訓練で集計された避難者情報などを共有します。



瀬戸市災害対策本部



防災への取り組みは既に始まっています



取り組みに欠かせない三つの柱

主体性・情報共有
安否確認が被害の軽減につながります



アイデア・防災グッズ
日ごろの備えが防災への第一歩



振り返り・課題のあぶり出し
訓練を活かしより良い準備をしましょう



市内全域で一斉に行う、協働参加型防災訓練。訓練に向け各連区単位でも準備は始まっていますが、中でも積極的な取り組みを行っている連区をご紹介します。

東明連区

情報の見える化 被害情報集計ホワイトボード

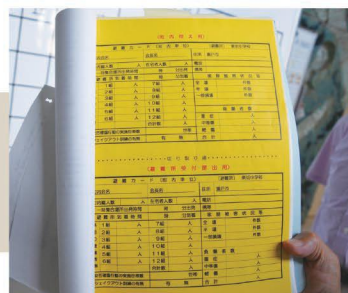
災害時、各町内会長が住民の安否を確認したものを、集計表に次々と書き込んでいきます。集計表の数字はそのまま市役所の災害対策本部に迅速に報告することが可能となります。

組織図の役割も大きいようです。本部長を筆頭に情報・消火・救出救護・避難誘導・給食給水の5班を組織し、責任者を明確にしました。それぞれの正・副班長まで決めており、防災リーダーの意識の高さがうかがわれます。

費用はホワイトボード2枚分と、そのボードへの印刷代程度。なぜこのような分かりやすい表を考案できたのでしょうか。実は防災リーダー委員会での発案により「体系的な情報と数字を一目」で把握することが可能となりました。



(左から) 防災リーダーの武馬さん、会長の松原さん、副会長の水野さん、公民館事務員の北村さん



「安否確認」もまた、防災において重要事項となります。一時集合場所に来られなかった方の安否は誰がどのように確認するのでしょうか。そのヒントになる、山口連区と水南連区の取り組みをご紹介します。

山口連区

無事の日印 黄色いハンカチ

「黄色いハンカチ」を考案した山口連区の取り組みも、全戸までシンプルに行き届いたアイデアです。自治会長の山田さんは「災害時、組長さんや町内会長さんが全ての世帯を訪問し安否確認するのは難しいと思います。無事を示す黄色いハンカチを玄関に掲げておけば、迅速な安否確認につながる。」と語ります。

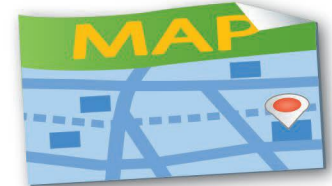
黄色いハンカチというのは山口連区防災協議会のユーマで、実際には連区の皆さんに配っている黄色いクリアファイルでも使用できます。例えばこのクリアファイルに防災に関する知識・情報を入れ、常に玄関に置いておけば防災への意識づけになるでしょう。



(左から) 副会長の本多さん、会長の山田さん、副会長の山田さん

水南連区

行き届く助け合い 組単位マップ



実際に安否確認を行う組長さんに、ご自身の地域を意識してもらおうという試みが水南連区の組単位マップです。本年度、各町内会長さんのご協力により、防災マップ作りの基礎となる情報や資料収集を行い、住宅地図を基に217組分の防災マップを作成されたとのこと。最後の戸まで確実に安否を確認しようとする意気込みを感じます。この取り組みは、本市の災害対策本部が狙いとしているものに非常に近く、まさに今後必要不可欠になっていきそうです。

一方で課題もあり、マンションなどはそれぞれ独自で防災対策を行っているところもあり、避難行動を一元化しにくい、ということもおっしゃられました。訓練の情報などを伝えることで、今後、避難行動の把握につなげていきたいとのことでした。



(左から) 副会長の瀧本さん、会長の早坂さん

ご紹介した3連区の事務局連絡先(担当者:各自治会長)

東明連区自治連合会: 82・8024 山口連区自治会: 87・2103
水南連区自治会: 85・8171



編集後記

普段から災害に関心の高い地域というのは、市の方針に先んじて住民の皆さん自身がさまざまなアイデアを出し合い、具体的に行動しているのだと感じました。同時に、各連区のごこうした取り組みが他連区にも伝わり市内全域で防災意識が高まりつつあることもよく分かりました。

過去からの防災知識を蓄積するとともに、よりシンプルに行動できるような仕組みづくりを、これからも市民の皆さんとともに作りあげていけると良いですね。

